

「新下郷農協物語」 注文殺到で増刷

名物組合長だった奥登さんの共著

耶馬溪町



今年五月、下郷農協(耶馬溪町)の組合長を勇退した奥登さん(セ)らが著した「新下郷農協物語」が好評。「無農薬・産直」の全国ブランドとなった同農協の半世紀を振り返った同書は、全国のJAや行政機関などから注文が殺到しており、六月に発売した初版の四千部に続き、すでに一千部が増刷された。「短い文章なら雑誌に書いたことはあるが長いのは初めて。素人ですから切ったり張ったりしてどうにか書き上げました。(退任した)一つのけじめです」と奥さん。

「新下郷農協物語」を書いた奥登さん



豊前・国東

- 中津市 ●真玉町
- 宇佐市 ●香々地町
- 豊後高田市 ●大田村
- 山国町 ●国見村
- 耶馬溪町 ●姫島村
- 本耶馬溪町 ●国東町
- 三光村 ●武蔵町
- 安心院町 ●安岐町
- 院内町 ●吉富町

【中津支社】
0979-22-0309
FAX 22-7802

【国東支局】
※0978-72-0259
【杵築支局】
※09786-2-2653

【宇佐支局】
※0978-32-0211

【国見通信部】
0978-82-0053
※印はFAX共通

【高田支局】
※0978-24-3310

同書は二部構成でジャーナリストの矢吹紀人さんと共著。矢吹さんは牛乳加工から始まり、無農薬野菜の生産、都市部への産地直送と、下郷農協が自らの手で切り開いた四十八年間を組合員の証言を交えながらリポート。奥さんは第二部「耶馬溪からのメッセージ」(四十ページ)を担当。矢吹さんの「外」からの視線を受けて、「内」からの視線で組合を振り返っている。また現在の農政への問題点を指摘し、「組合員が主人公とした農協づくり」を呼び掛けている。

「無農薬・産直」の全国 ブランド確立振り返る

「分かりやすく書いているから外部の人にも読みやすいと思う。農業関係者の参考になるのでは」と奥さん。現在は名営組合長の座に退き、同町大島の自宅で悠々自適の生活。「四十八年間よく働いた。今はゆっくり休んでいるところ。気が残っているなら、今度は私の一生を書いた本を出したいですね」としみじみと語った。

「新下郷農協物語」は一冊千五百円で全国の書店で発売中。問い合わせはシアンドシ出版(☎03・52261・8781)まで。